平成30年度　麻生区市民提案型協働事業　中間報告

団体名（　　白山１丁目・ちょっと支援隊　　）	
事業名（　　第３期高齢団地の“支え合い”立ち上げ事業　　）	
①事業の概要	超高齢化した団地で、住民相互の支え合いの重要性を学びつつコミュニティ活動を活発化させ、公的サービスと併用するボランティア型生活支援活動を立ち上げ、活動を進める。 第３期事業では、前期より深化させた内容で、地域包括ケアシステムや高齢者の健康問題などの勉強会を開き、また、すでに住民の支え合いを実現している首都圏の先進事例を視察し、具体的な活動内容のイメージを明確化する。 今期の重点課題は、上記の勉強会等を通じて得た知見、情報をベースに、具体的に“支え合い”の活動を開始する事と、住民相互の親睦を図る活動をより活発化させる事である。
②上半期（９月末まで）の事業の取組状況	**取組の経過** / **取組に伴う効果**
	１）講演会　　参加者 ①6・16　鈴木恵子・すずの会代表（川崎市宮前区） 「気になる人を真ん中に」　43人 ②7・14　近藤克則・千葉大予防医学センター教授 「健康格差社会への処方箋」　52人 ２）視察 ①6・2　小規模多機能ホーム・ぐるんとび一駒寄　４人 （団地の空き部屋を利用した施設。藤沢市） ②9・14　福祉クラブ生活協同組合・きらり港北　９人 ３）有志ボランティア“支え合い”活動（随時） ９月末まで利用者10名、延べ116件の支援を実施。 支援内容はゴミ捨て(定期利用も含む)、電球交換、粗大ごみの撤去、車いすの転倒、手紙の投函等。 活動は「ボランティア通信」にて報告。 詳細は同通信に掲載。 ４）会議 ①連絡会議（原則１ヶ月に一回開催） ②支え合いボランティア会議（原則３か月に一回開催） 7・31＝有志ボランティアら25人参加	★取り組みの効果 ・講演会については、コミュニティ活動、健康問題、在宅医療の分野での第一人者をお呼びし、最先端の話をお聞きし、住民相互の交流、地域包括ケアシステムの重要性を認識し、また、在宅医療の可能性を学ぶことができた。 ・視察については、団地の中に小規模多機能施設を設けることの意義を実感でき、分譲型マンションでは困難な点はあるが、今後の方向として追及する課題と認識できた。また、神奈川県の福祉クラブ生協では、地域包括ケアシステムを生協活動方式で展開できることを学び、麻生区との協同事業が終了した後の活動の検討課題となりうることを認識できた。 ・ボランティア活動は、地域の高齢者に健康な方が多いためか、まだ支援の申し込みは少ないものの、それなりに事例が積みあがっている。 ・各号棟毎に窓口担当を配置して、支援内容に応じてボランティアの人員体制を調整し、ローテーションを組んで無理なく実施できる体制を整備した。 ・定期的にボランティア会議を開き、あるいはボランティア通信で活動を報告することで、経験を共有化できた。また、ボランティアが安心して活動するために個人情報の取り扱いや保険加入について検討した。

	5）コミュニティカフェ「さつき会」 （ONE コイン食事会として原則・毎月開催） 1　4・28（お好み焼き+田中さん頭の体操）16 人 2　6・23（釜揚げうどん+田中さん頭の体操）22 人 3　7・28（野菜と豚肉のしゃぶしゃぶ鍋+田中さん頭の体操）17 人 4　9・29（生協弁当+佐間田奏雄さんストレッチウオーキング、宮良さん日本一周バイク旅報告）19 人 6）会報「ちょっと支援隊ボランティア通信」発刊 不定期発行。３月に創刊。６月２号、９月３号。 7）各種サークル活動立ち上げ 活動開始＝囲碁、健康麻雀、 準備中＝散歩、そば打ち、音楽鑑賞、芸術作品展 8）その他 ・ポプラ支え合いとの情報共有（適宜） ・ちょっと支援隊の活動の他街区との情報共有・提供 8・26　アカシア街区支え合い活動準備会で活動報告 ※会場はさつき街区第一、第二集会所を利用 ※すべて他街区の方々にも開放 ※それぞれの活動はすべて案内を全戸配布し、活動の存在も分かるようにしている。	・コミュニティカフェ・さつき会は毎回 20 人前後の人が集まり、ゲストスピーカーの話を聞くようにし、今後は引き籠り防止の一助になることが予想される。 ・ボランティアがサークル活動の運営の中心を担い参加者と顔の見える関係を築くことで、さつき会や支え合い活動への敷居を下げ、活動の活発化が期待できる。 ・ちょっと支援隊より先に支え合い活動を展開している「ポプラ支え合い」とは、立ち上げ時から交流を重ね、経験・知見を共有しながら双方の発展を図っている。 ・本年度アカシア街区が高齢者支援の仕組み作りに着手する動きが見られ、他街区の支え合いの創設や運営に関する相談に積極的に経験等を伝え支援している。支え合い活動が他街区への波及につながっている。
③課題と改善方法	・事業は一部の変更はあるものの、基本的に計画通りに進捗している。 ・講演会など 50 人余りの参加はあるが、他の活動も含め、それ以上に広がっていない。現役世代の活動参加が難しいにしても、高齢者になった方々の参加を図らないと、先細りになるので、引き続き活動の存在をアピールしていく必要がある。 ・街区のマンション管理組合が 2018 年度の活動計画として「ちょっと支援隊」と連携して高齢者支援に乗り出す方針を打ち出したが、今後とも話し合いを続け、管理組合との連携を模索する。 ・支え合い活動の中でどこまでの依頼を引き受けるか判断が難しい場合がある。その為、ボランティア活動で取り組む内容やルール作りが必要である。	

④下半期（３月末まで）の取組予定

10 月	講演③　川越正平・松戸市あおぞら診療所医師 「老いても病んでも地域で暮らし続ける」
11 月	あなたの元気度チェック 体力測定
１月	視察③　埼玉県上尾市ＮＰＯふれあいねっと 自治会からＮＰＯへ（尾上道雄・代表理事）
２月	講演④　認知症コーディネーター養成講座 「みんなオレンジリングをつけよう！」
	ボランティア活動 ボランティア会議 ボランティア会通信発刊 第３期活動のまとめと反省 第三期活動報告書の作成 今後の活動計画の策定